居留地会議

THE FORMER FOREIGN SETTLEMENT OF KOBE

サンバ復活で迫力ある踊りを披露するブラジル・リオ市のサンバチーム　写真提供：神戸新聞社

新たな希望と決意のもと華やかに神戸まつり復活。

従来の８月初旬から約２週間早い７月18日（木）～21日（日）の４日間にわたって「第26回神戸まつり」が開催されました。「海の日」に合わせて開催された今年は、特に昨年が震災の影響で行われなかったため、２年ぶりのうれしいお祭りとなりました。

メインイベントのひとつ、メリケンパーク沖合で催された神戸港花火大会（神戸港振興協会、神戸新聞社主催）では、神戸の復興を願って新潟・長岡ＪＣからプレゼントされた打ち上げ花火など、過去最多の2653発が鮮やかに夜空を彩り、約25万人の拍手と歓声で沸き立ちました。

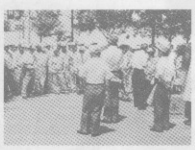
またメインフェスティバルの最後を飾るサンセットパレードには、踊り、だんじり、サンバなど84団体6200人が参加。ハーバーランドをにぎやかに行進しました。神戸サンバチーム800人の熱く軽やかなステップで始まったこのパレードの締めくくりは、震災犠牲者を追悼する総踊りでした。この４日間の人出は105万人（神戸市民祭協会発表）。神戸まつりの復活は、まさに神戸そのものの復興を印象づけるものとなったようです。

MEMORANDUM
APR.96－SEP.96

■4月29日（月・祝）
神戸フィルハーモニック・クラシックコンサート
■5月18日（土）
春待ちファミリーバンド・コンサート（後援）
■7月12日（金）クリーン作戦
■7月17日（水）
村山義光ウイズヒズフレンズ・ジャズコンサート

INFORMATION

■10月下旬
クリーン作戦
旧居留地の緑化運動の一環としてビルの周辺にプランターを設置します。



■11月3日（日）
ウォークラリー　ふるってご参加ください。
■12月12日（木）～25（水）　神戸ルミナリエ
■12月14日（土）
旧居留地クリスマスコンサート「第九交響曲」

旧居留地クリスマスコンサートにペアで250組をご招待

主催旧居留地連絡協議会　共催さくら銀行　後援神戸市、(財)神戸市民文化振興財団
日時／12月14日(土)午後4時開演（午後3時30分開場）
場所／さくら銀行神戸営業部1階ロビー　入場無料（但し、要整理券）

[入場整理券応募要領] 住所、氏名、年齢、電話番号をご記入のうえ、〒650　神戸市中央区播磨町30大丸カーポート内旧居留地クラブへ、往復はがきでお申し込みください。
締め切り／11月22日（金）必着　応募多数の場合は抽選のうえ、当選者のみに入場整理券を発送。
＊またこのコンサートのコーラスに参加しませんか。旧居留地に勤務している方ならどなたでもＯＫです。詳しくはイベント委員会までお問い合わせください。

旧居留地連絡協議会　平成８年定時総会で事業計画・予算案などを承認

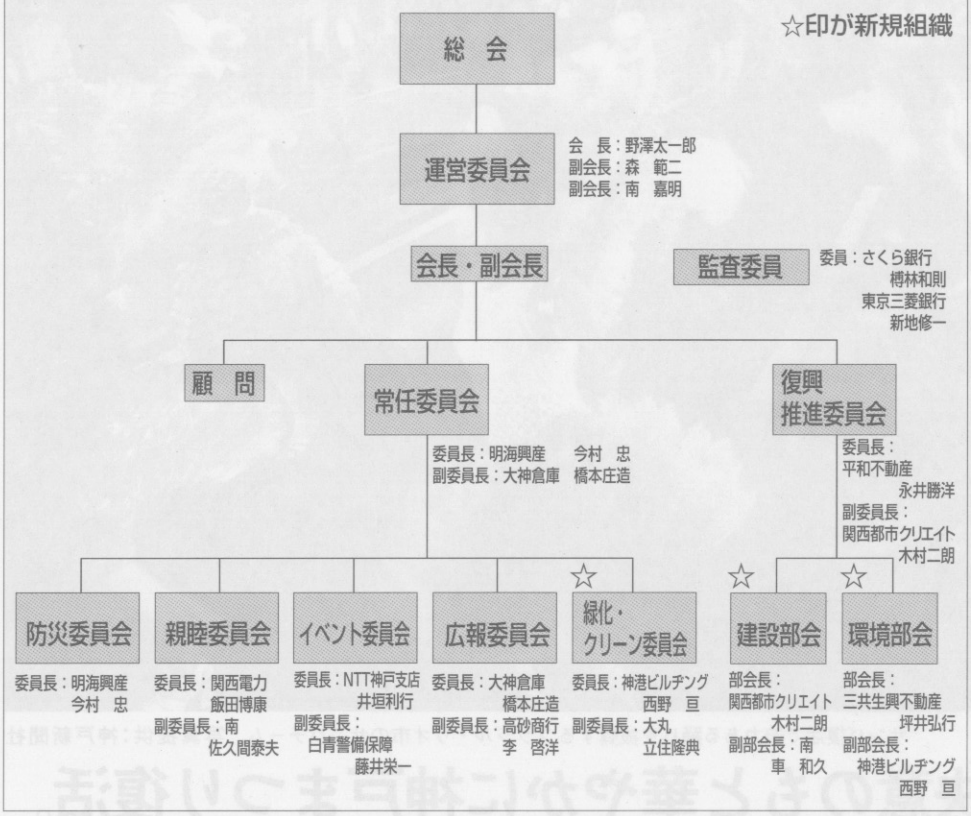
平成８年４月26日、兵庫県農業会館において、旧居留地連絡協議会平成８年　定時総会が行われました。（株）ノザワ・最高顧問の野澤太一郎会長の挨拶の後、平成７年度事業報告、平成８年度事業計画案などが承認され、組織の変更とともに役員が改選されました。

承認された議案

（1）平成７年度事業報告
（2）平成７年度収支報告
（3）平成７年度監査報告
（4）平成８年度事業計画案
（5）平成８年度予算案
（6）組織の変更
（7）役員改選
（8）その他

旧居留地連絡協議会 組織図

☆印が新規組織



仲町通周辺で歩道・道路の整備工事が進行

最近の仲町通（上）と震災直後（下）のようす
（写真提供：さくら銀行）

被災した歩道・道路の整備計画が仲町通周辺で進んでいます。仲町通は「復興計画」において、歩行者優先道路の中でも地区内歩行者の主軸に位置付けられている場所。車道を含む舗装の高質化と歩道空間の融合などを含めた整備促進を目指しています。

旧居留地が防災福祉コミュニティのモデル地区に

阪神淡路大震災での市民・事業者の自主的な活動は、地域における自主的な防災活動の有効性を再確認させてくれました。

そのため神戸市では、現在神戸市復興計画のシンボルプロジェクトに掲げる「安心ネットワーク」構想の一環として、地域の安心と安全を高めるために「防災福祉コミュニティ・モデル事業」を推進しています。この度、この事業の業務地区代表として旧居留地が選ばれました。

「防災福祉コミュニティ・モデル事業」とは日頃の福祉活動で地域の絆を深め、それを災害時に生かすための活動です。

「安心ネットワーク」構想がすべての地域の共通課題になっているにもかかわらず、業務地域においてはこれまで未着手でした。旧居留地がモデル地区に指定された理由は、新たな組織を立ちあげるのではなく、活動実績のある組織だからです。また「神戸旧居留地／復興計画」においても防災対策などが検討されており、この度、防災委員会を発足し、規約・組織の検討をしております。

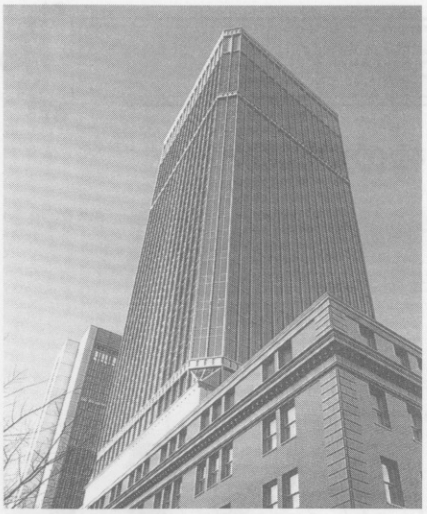
地区計画や都市景観条例に基づく届出を

神戸市では、旧居留地地区を昭和58年に都市景観条例に基づく都市景観形成地域に指定し、また平成７年４月には都市計画法に基づく地区計画を決定しています。

当地区において建物などの新築・増築・改築・移転・除却・大規模の模様替・外観の過半にわたる色彩の変更や広告物の表示などを行う場合には必ず事前協議のうえ届出を行ってください。

また、まちづくりや都市景観に関するご相談についてもお気軽にお越し下さい。

問合わせ先
神戸市役所都市計画局
アーバンデザイン室
ＴＥＬ：078(322)5484

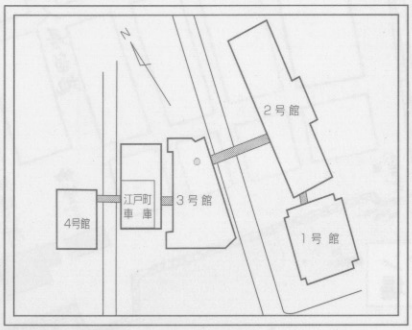


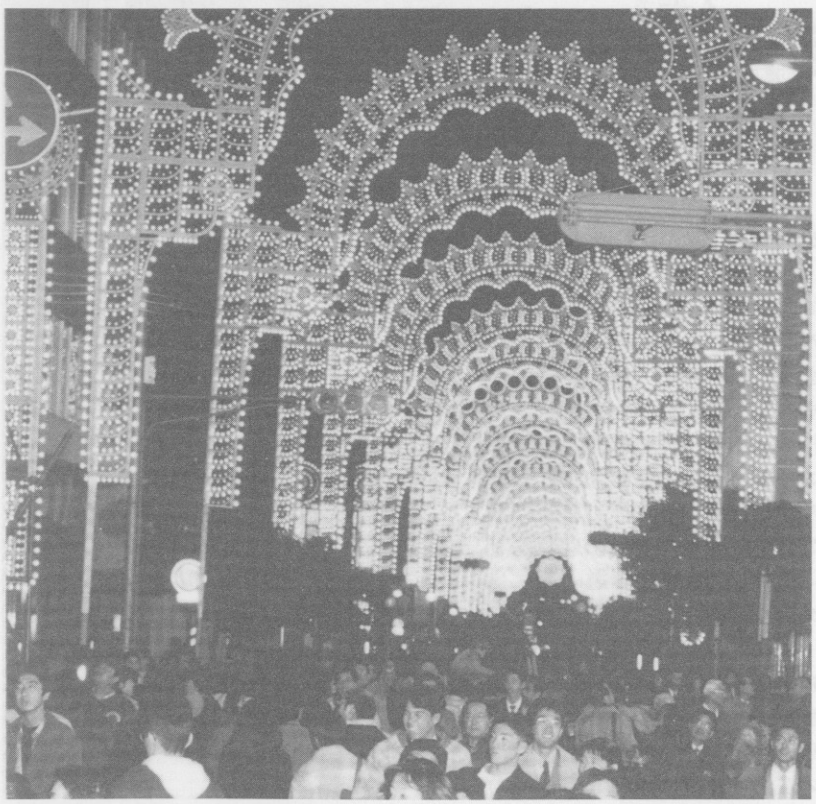
神戸朝日ビル “さわやか街づくり賞”受賞

やすらぎのある美しい景観づくりに貢献した作品や活動を表彰する兵庫県の「第５回さわやか街づくり賞」の建築部門で、神戸朝日ビルディング（中央区）が同賞を受賞しました。同ビルは94年２月に完成。浪花町の北端に位置しています。受賞理由は「高層オフィスの低階層に旧建物の外観のイメージを保存し、旧居留地の景観形成に寄与している」ということです。

市役所の渡り廊下も旧居留地風に

神戸市役所４号館の渡り廊下が、隣接マンションとの一体感を考えて旧居留地風のデザインになることが決まりました。
市と住民が共に街並みを作っていくモデルケースとして、注目されそうです。





©Valerio Festi/I&F Inc.

神戸の夢と希望を象徴する風物詩 神戸ルミナリエが今年も再び

昨年12月、震災犠牲者の鎮魂の意を込めるとともに、復興・再生への夢と希望を託して開催され、好評を博した「神戸ルミナリエ」が今年も12月12日から25日までの14日間開催されることになりました。昨年はロマンティックな神戸の夜に灯された荘厳な光の芸術に、11日間で254万3千人の見物客が全国から訪れました。経済的波及効果はもちろん、冬の集客観光復興促進事業の柱としてさらに夢と希望を象徴する風物詩として定着することが期待されています。会場は旧居留地および東遊園地。

VOL.2

まちづくり通信 “21世紀へ”

震災のため崩壊した建物の多くは、現在再建に向けて着実に動きつつあります。中でもいち早く解体にかかり再建を目指していた第一楼がリニューアルオープン。次に続けとばかりに旧居留地はますます活気づきそうです。その他の再建状況は次の通り。

❶ ホテル ヴィア マーレ 神戸（平成９年２月完成予定）
旧居留地の皆様に安心してご利用いただけるホテルを目指して頑張っています。

❷ 第一 楼（平成８年10月18日(金)リニューアルオープン）
街の雰囲気に溶け合うレンガ造りの建物。多目的ホールやチャペルも新設しました。

❸ 旧居留地15番館（平成10年３月完成予定）
被災地にある建造物の中でも最大級のダメージを被ったにもかかわらず再利用できる部材が半分以上残っていたことから、比較的早く再建の見通しが可能に。

❹ 大丸神戸店（平成９年春完成予定）
来年春のグランドオープンを目指します。

❺ 港都ビル（平成９年２月完成予定）
関西オフィスビルでは初めて免震構造を取り入れるとして注目されています。

❻ 明海ビル（平成10年１月完成予定）
歴史と伝統を重んじた風格あるビルの再建とともに低層部には夜間・休日の活性化を促す商業施設の導入や憩いの場となる公共的小広場の提供も。

❼ 神戸旧居留地平和ビル（平成10年２月完成予定）
旧居留地の街並みを考慮し「新・旧の融合」を具体化した建物。

❽ 海岸ビル（平成10年１月完成予定）
外壁復元。公開空地を拡大して公共広場に提供します。

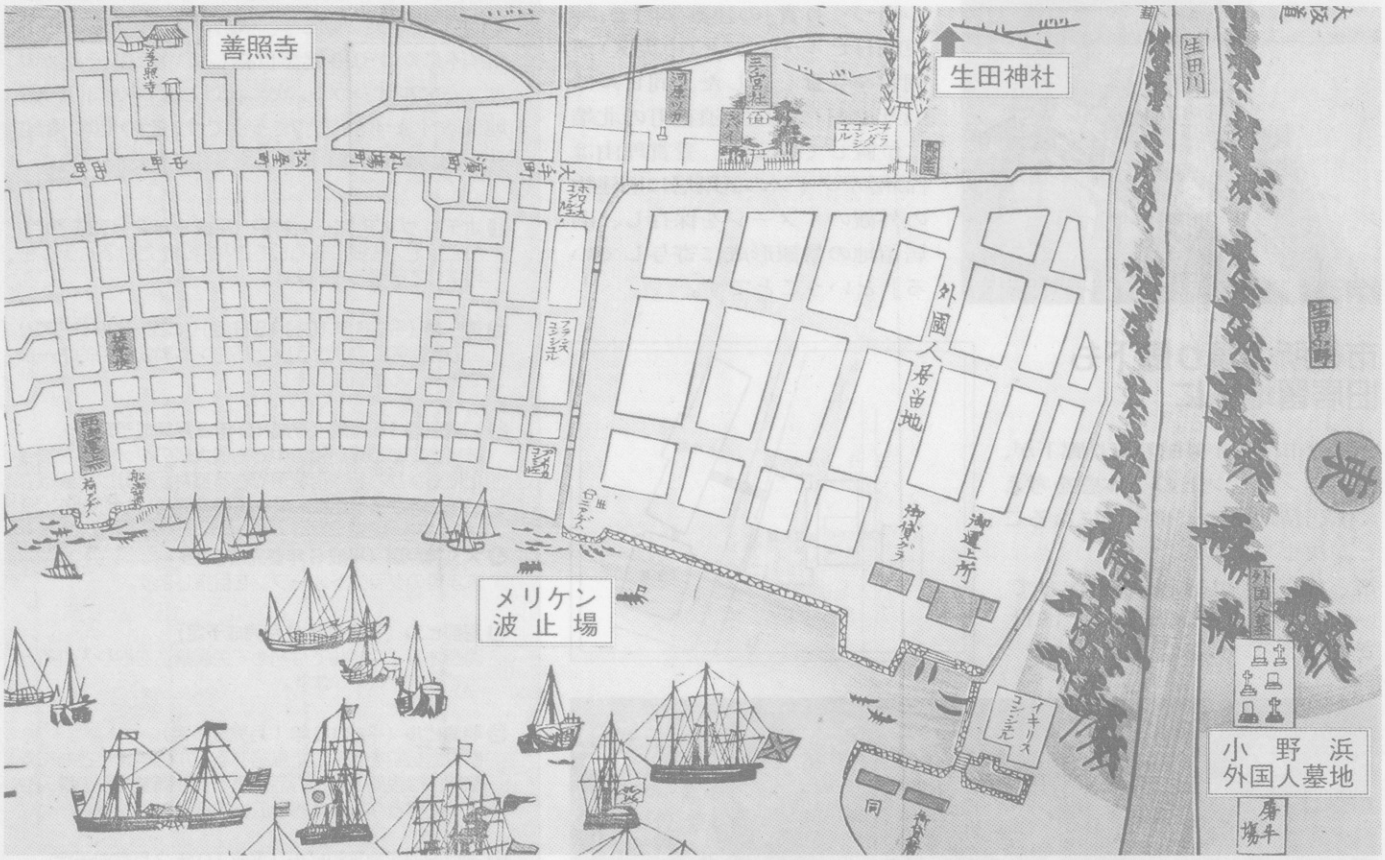
❾ 日本ビル（平成９年10月完成予定）
私たちは、時代を越えて理想空間を創造しています。

❿ 神栄ビル(平成10年３月完成予定）
地上８階、地下２階、外観は生糸商社として始まった同社らしいシルク色を基調にした建物です。

復興に向けて動き出したビル

この街をもっと知りたくて。歴史散歩シリーズ 1

開港まもない頃の居留地 ―1枚の絵図から―



『兵庫県御免許　開港神戸之図』　慶応４年(1868)発行(部分)　神戸市立博物館所蔵

神戸は1868年1月1日（慶応3年12月7日）の開港から、まもなく130年を迎えます。開港に伴い設置された外国人居留地は、制度上は1899年（明治32）7月17日に日本側に返還されるまで30年余り存続し、近代都市神戸が形成される核としての役割を果たしました。それでは開港したころの居留地付近はどのような状況だったのでしょうか。開港4～5か月後に出版された上の絵図は、当時の様子をビジュアルに伝えてくれます。

外国人居留地は、貿易を行うために外国人が住むことを許された区域です。1858年（安政5）の日米修好通商条約など、江戸時代の終わりに幕府が諸外国と結んだ条約で定められました。神戸の居留地は慶応3年4月の取り決めに基づいて、生田川から鯉川の間の、西国街道付近から海岸にかけての田畑や砂地を埋め立てて設けられることになりました。しかし、神戸の開港は、幕府から明治政府へ政権が移る激動期のさなかだったので、開港時には居留地の造成工事は完成せず、その年の9月（慶応4年7月）にようやく第1回永代借地権の競売が行われます。

絵図が出版されたのは、それ以前ですから、居留地内には1軒の外国商館も建っていません。各国の領事館も居留地内の、のちの126区画の外におかれています。絵図中の「運上所（のちの神戸税関）」東南の「イキリスコンシユル」は、当時、欧米諸国の中で東アジアにもっとも勢力を張っていたイギリスの領事館で、勝海舟が幕府の命で開いた旧神戸海軍操練所の建物を利用しています。生田神社参道の西にはオランダ、居留地のすぐ西側には「ホロイス（プロシア）」、フランス、アメリカの領事館が置かれています。アメリカ領事館（今の神戸郵船ビルの場所）の南の「ニアゲハ（荷揚げ場）」がメリケン波止場と呼ばれるようになります。

絵図中「浜町　大手町」を通り（のちの元町通）、三宮神社前を過ぎ、生田神社の参道を北へ上がり東に向かうのは西国街道。開港して1か月過ぎた2月4日（慶応4年1月11日）、新政府の命令で西宮警備に向かうため、西国街道を西からやって来た備前岡山藩の兵隊が、行列を横切ろうとした外国人に発砲するという事件（神戸事件）がおこったのは、居留地北隣の三宮神社付近です。

また居留地の東の境・生田川は長雨が続くと氾濫して大きな被害をもたらしたため、1871年（明治4年）に川筋が付け替えられ（新生田川）、旧川堤と川床は加納宗七らによって埋め立てられて加納町が生まれます。生田川左岸の小野浜には、外国人のための墓地や屠牛場も設けられ、造成中の居留地のまわりには田畑が広がっています。

こうして、1枚の絵図からも、紆余曲折を経ながら、国際貿易港都市として発展してきた神戸の、なつかしい風景の一コマを垣間見ることができます。

神戸市立博物館学芸員　田井玲子

新　会　員　募　集
●入会のお問合わせ、お申込みは
神戸市中央区京町79　南㈱
TEL.078（222）2700佐久間まで

旧居留地連絡協議会
神戸市中央区播磨町30大丸カーポート7階
TEL.078(332)0151 FAX.078(332)0052